

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530448

研究課題名（和文） トランスナショナリズムと市民権制度の変容

研究課題名（英文） Transformation of Citizenship Institutions under Transnationalism

研究代表者

樽本 英樹（TARUMOTO HIDEKI）

北海道大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：50271705

研究成果の概要（和文）：「国際移民による国民国家への挑戦」を、市民権とトランスナショナリズムの理論視角から再考した。第1に、国際移民レジームは移民規制機能を備える一方、権利付与機能による国境を超えた公共圏は発達させてはいなかった。第2に、日本のケア移民政策が移動を厳しく規制しても、社会的再生産などの変動を回避できない可能性が示された。第3に、東アジア諸国は厳しい移民政策を採用する一方、ディアスポラ政策などに異なる特徴を示した。

研究成果の概要（英文）：This research reconsiders the "challenge to the nation-state by international migration" from a theoretical perspective of citizenship and transnationalism. First, whilst international migration regimes acquire migration-regulating function, they do not fully hold rights-providing function which leads to development of the public sphere beyond national borders. Second, although care immigration policy in Japan controls migration of nurses and care workers, it can produce social change in terms of social reproduction drastically. Finally, East Asian countries share strict immigration policies but present some different characteristics such as diaspora policies.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：国際社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：国際移民、市民権、グローバリゼーション

1. 研究開始当初の背景

戦後国際人口移動の活発化の結果、先進諸国へ異なる文化を持ったエスニック・マイノリティが移民として流入し、様々な社会問題が生じている。それら諸問題は「国民国家」という枠組みがどこまで有効なのかという極めて切実な問いを提示している。しかし、「国民国家という枠組みへの懐疑」が具体的に

かなる問題なのかという点に関しては、意外なほど明らかではない。

1980年代終わりから、マクロ的志向を持つ国際移動論・エスニシティ論研究者はこの「懐疑」を「国際移民による『国民国家への挑戦』が生じているのかどうか」という問題に定式化して論争してきた。具体的には、「国民国家への挑戦」は以下の2つの観点で議論されている。

第1に、出入国管理に関わる主権への挑戦（「国家主権への挑戦」）。第2に、単一均質なメンバーシップとしての市民権への挑戦（「ナショナル市民権への挑戦」）。

この論争にはいまだ決着がつかない。議論を進展させるためには新たな理論的視角の導入が望まれる時期にきていた。

2. 研究の目的

「国民国家への挑戦」論争を再考するために注目した観点は、21世紀に入って特に進展してきた「トランスナショナリズムによる社会空間の変容」である。ここで言う「トランスナショナルな社会空間」とは、「2つ以上の空間にまたがって存在する社会的・象徴的紐帯、個人的ネットワーク、組織的ネットワークの組み合わせ」である。具体的には、投資や送金など経済的現象、出身国の民主化運動など政治的現象、出身国での消費活動による威信の充足など社会・文化的現象として現れる。さらに特に注目されるのは、トランスナショナルな社会空間の登場後の、移民のホスト社会への編入である。トランスナショナルなコミュニティの形成は、移民の編入を促進するのか、それとも長期的には阻害しホスト社会から隔離させているのか、議論が高まっている。本研究の目的は、トランスナショナルな社会空間が形成され、国民国家という枠組みが無化または弱体化しているのかどうかを示すことにある。

3. 研究の方法

まず、国内外の文献資料を調査することによって市民権変容とトランスナショナリズム生起のメカニズムに関する理論的考察を行った。次に、同じく文献資料調査によって市民権変容とトランスナショナリズム生起の具体的な現象を把握する作業を行った。特に、英国ウォーリック大学の所蔵する Ethnic and Migration Collections が極めて役に立った。加えて、行政側の対応という観点からトランスナショナルな社会空間形成を考察するため、面接調査をも実施した。

4. 研究成果

研究を進めた結果、以下の3つの成果を得ることができた。

第1に、「トランスナショナルな現象」としての国際移民レジームに関してである。国際移民を包含する公共圏をいかに構築できるかという観点を問題とした。まず、J. ハーバーマスの公共圏概念を検討し、国際政治学などの国際レジーム概念を検討した。そして、国際移民レジームの内容を精査した。そ

の結果、国際移民レジームは移民規制機能と権利付与機能の矛盾する2側面で構成されていることがわかった。世界人権宣言を端緒として発達してきた権利付与機能が公共圏創出のために大きく寄与する可能性を秘めている一方、2009年9月11日の同時多発テロ事件など近年の国際テロリズムの影響などのため権利付与機能は十分発達しておらず、むしろ移民規制機能が国家間協力の下、肥大化する傾向にあった。そこで権利付与機能の発達を妨げている要因をいかに乗り越えることができるかを次の段階で研究していった。その結果、以下の4つの要因が取り出された。第1に、労働市場のグローバル化の不徹底。第2に、中央集権の欠如。第3に、組織化原理の欠如。第4に、イシュー連結の欠如。現実の国家間協力および、国家と各種アクターとの協働関係を鑑みると、権利付与機能に関わるイシューを別のイシューと連結させることが、最も実行可能な方策であることが確認された。

第2に、「再生産のトランスナショナル化」に関してである。日本政府は、2008年インドネシアから、2009年フィリピンから看護師と介護士の候補者を受け入れ始めた。このケア移民政策は、「単純労働者」の受け入れであり、国境管理のジレンマを国境閉鎖の方向で解消するというこれまでの日本の方針に反する。

ところが日本は、国境管理ジレンマの閉鎖的戦略を手放しはしなかった。看護師・介護士候補者に厳しい条件をつけた。第1に、資格と経験が限定された。第2に、正式に働くためには日本の国家試験に合格することを求めた。

このような閉鎖的戦略への執着で国境管理ジレンマを解消することは、かなり難しい。再生産のトランスナショナル化が進み、社会的再生産に関して国境を超えた依存関係を形成してしまうからである。

第1に、ケア移民の導入は移民政策全体の見直しへとつながっていく。在留資格付与に関する「高度人材」か「単純労働」かという実態を無視したカテゴリー、在留資格「介護」の新設が議論になるであろう。

第2に、ケア移民が「研修」名目で事実上の「単純労働」に従事する可能性が高い。このことは、「使い捨て労働者」、外国人差別、女性差別の懸念と共に、ケア移民の導入と使用に経済的・社会的依存をつくり出していく。

第3に、これまでの外国人労働者が製造業や建設業などに従事する「見えない存在」であったのに対して、ケア移民は対人サービスに従事するため「見える存在」となる。その結果、日本社会の多文化社会化を大きく進め、再生産を国境を超えた現象にしていくことであろう。

以上のように、再生産のトランスナショナル化は国境管理ジレンマの解消を困難にしつつ、市民権制度を変容させる。その変容は、経済的生産だけでなく社会再生産をも国境を超えた現象とする根本的なものとなる。

最後に、トランスナショナリズムと市民権制度の変容をアジア諸国を対象とした比較研究に拡張する試みを行った。本補助金の範囲としては、日本、韓国、台湾に絞った。また、比較研究のための理論的視角として、「移民レジーム」を導入して各国の共通性と異質性を把握できる工夫をし、また「移民マネジメント」概念によって欧米諸国で近年活発に議論されている a 'triple-win' situation の創出に着目した。

移民レジームに関しては、日本、韓国、台湾ともかなり近似した移民政策体系を持っていることがわかった。基本的には経済需要に見合うだけの最小限の移民を受け入れ、市民権的権利の付与を難しくするという排他的な政策であると言える。しかし一方で日韓台間で差異も存在した。特に同じエスニシティを共有するディアスポラ移民に関して、日本がいわゆる日系人政策により積極的に受け入れを行い非熟練労働の経済需要を満たそうとしていたのに対して、韓国は北朝鮮からのディアスポラ移民と、中国・CIS 諸国からのディアスポラ移民で異なる政策をとっていた。また台湾はディアスポラを受け入れる政策を持たなかった。

一方、移民マネジメントの観点からは日本のケア移民政策を取り上げた。経済協力提携(EPA)と言われるフィリピン、インドネシアとの二国間協定や、送り出し国におけるケア移民の養成および選別の制度は、移民マネジメントが目指す a 'triple-win' situation を目指すものにも見える。しかし一方で日本がケア移民に課す厳しい選別要件は、いまだケア移民政策が移民たちに対する搾取の機能をも持つことが明らかになった。

以上をまとめると、市民権の変容という視角から見た「国民国家への挑戦」は確かに生じているものの、国民国家という枠組みはいまだ現代の主要な政治組織化原理として力を保持していることがわかった。しかし同時に、その力の発揮の方向は国民国家自らの基盤を掘り崩す方向性をも保持している。今後の研究においては、どのような要因と契機によって国民国家という原理が質的に変化するかが問われなければならない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 川崎賢一・樽本英樹, 特集:「グローバルゼーション再考」よせて, 社会学評論, 査読無, 60(3), 2009, 326-9.

② 樽本英樹, 理論的アクチュアリティの探究—国際社会学から社会学一般へ, 現代社会学理論研究, 査読無, 3巻, 2009, 3-15.

③ Hideki Tarumoto, Multicultural Societies and Normative Sociology, コロキウム, 査読無, Vol. 4, 2009, 57-67.

[学会発表] (計8件)

① Hideki Tarumoto, Migration and Citizenship Regimes in Asia, Nagoya University and International Federation of Social Science Organizations (IFSSO) Symposium, February 21-22, 2011, Nagoya University, Nagoya.

② Hideki Tarumoto, Managing Borders and Migrants through Citizenship: A Japanese Case, Winter International Symposium 2010, De-Areanization of Border Studies: Greater Eurasia and Its Neighbors, December 4, 2010, The Slavic Research Center, Hokkaido University, Sapporo.

③ Hideki Tarumoto, Towards a New Migration Management: Care Immigration Policy in Japan, International Workshop: Disciplining Global Movements: Migration Management and its Discontents, November 13, 2010, University of Osnabruck, Osnabruck, Germany.

④ 樽本英樹, 吉田理論と国際社会学, 第83回日本社会学会大会, 2010年11月7日, 名古屋大学(名古屋市).

⑤ Hideki Tarumoto, Asian Migration and Citizenship Regimes, The 8th East Asian Sociologists' Conference, October 29-31, 2010, Korea Maritime University, Busan, Korea.

⑥ 樽本英樹, ポストナショナル市民権の国際社会学, 上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科・人の国際移動研究会, 2010年9月22日, 上智大学(東京都千代田区).

⑦ Hideki Tarumoto, The Asian Migration Regime and Care Immigrants, XVII ISA World Congress of Sociology, 11-17 July 2010, Gothenburg, Sweden.

⑧ Hideki Tarumoto, Considering the Asian

Migration and Citizenship Regime, XVII ISA World Congress of Sociology, 11-17 July 2010, Gothenburg, Sweden.

〔図書〕（計4件）

- ① Hyun-Chin Lim, et al., Seoul National University Press, The New Asias: the Global Futures of World Regions, 2010, 227-247.
- ② Wai Ling Lai, et al., Azusa Shuppan, A Study of Healthy Being: From Interdisciplinary Perspectives, 2010, 153-167.
- ③ 樽本英樹, よくわかる国際社会学, ミネルヴァ書房, 2009, 235.
- ④ 佐藤成基, 他, ナショナリズムとトランスナショナリズム, 法政大学出版会, 2009, 336.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

樽本 英樹 (TARUMOTO HIDEKI)
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：50271705

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし